



一般社団法人

21世紀の新しい企業を創造する経営者集団

日本道経会

会報 令和7年
— 2025年 —

3

No. 304

月号

本会の目的

本会は、「道徳経済一体」の理念に基づき、産業人教育の推進ならびに繁栄と永続の企業の創造につとめ、経済倫理の確立および経済界の安定的発展に寄与し、地球市民の一員として社会に貢献することを目的としています。

日本道経会会員社数 / 互敬塾塾生

719社 / 449名

(令和7年3月1日現在)

巻頭言

三方よしで人生今日がはじまり

(一社)日本道経会 副会長
株式会社 八天堂 代表取締役

森光 孝雅



私の座右の銘は『人生今日がはじまりここから挑戦』です。それは郷土広島が生んだ将棋界初の全冠制覇（当時三冠）した升田幸三氏からの影響が大きいです。

三冠達成時のインタビューにて『辿り来て未だ山麓』と、夢にまで見た頂点に辿り着き、思わず出た心の言葉である。常に初心に立ち戻り謙虚な気持ちで挑戦して行こうとする志なくば、この言葉は決して出なかったのではないのでしょうか。

現在、私は生田泰宏会長の下、日本道経会副会長として三者連携委員会（モラロジー財団、麗澤大学、日本道経会）を担当しています。

主に『三方よしアワード』をモラロジー財団設立100周年グランドアワードと位置付け、今年度はセミアワードとして開催します。

選考にあたり麗澤大学経営学部長の近藤明人先生、モラロジー財団の藤井大拙企業センター長に『三方よしアワードの基準』を決めて頂き、それに則り決定する運びです。委員会メンバー皆さんにはご尽力頂きこの場を借りて感謝

申し上げます。

この度のセミアワードでは日本道経会メンバー中心に推薦された企業です。

何も三方よし経営の実践に努められており、実績を残された模範となる企業ばかりです。因みに2年後のグランドアワードでは会員以外の一般企業或いは、様々な組織にも推薦枠を広げ臨む計画です。併せて出版部様との連携を図り全国書店（Amazon など）にて出版予定です。

・三方よし定義

三方よしとは売り手よし・買い手よし・世間よし、です。社員はじめ仕入れ先売り手先はもちろん、ステークホルダーの皆さんに『よし』となる事業となっているか。

更にこれからの時代はSDGs つまり環境面など配慮した持続可能な事業である事も欠かせません。

この度の選考にあたり、多くの三方よし企業に触れ、改めて強く感じた事があります。

それは、三方よし経営を実践するために、道経一体経営の重要性を学び、その根幹を成す【人づくり】を目的とされている事です。これからも、会員の皆さまと共に『人生今日がはじまりここから挑戦』の気概を持って精進して参る所存です。

一般社団法人
日本道経会
スローガン

理念 未来を拓く 企業の姿は 三方よし

活動 企業の繁栄は人づくり経営にあり



1月23日（木）15時より、京王プラザホテル(新宿)にて、1月例会ならびに新春経済講演会を参加者31名にて開催しました。

1月例会では、鹿倉弘之代表幹事から新年の挨拶と今年の抱負を述べられ、その後、新春経済講演会では、慶応義塾大学ビジネススクール教授 小幡 績講師より「日本経済再浮上の鍵は社会資本だ！」と題してご講演いただきました。

小幡講師は独自の理論から、「冷戦終了後、市場経済が広がり、生活必需品でない新しい贅沢品、ゲーム、SNS、スマホなどの余暇品が儲かる事となった。宗教を捨てて自由奔放に発展した近代資本主義は、バブルとなり制御不能となりつつある。」と

したうえで、「日本はこの30年で衰退したのではなく、バブルの山が高かっただけであり、この間に素晴らしく発展したものも多い。そして消費者の必需品を職人気質で誠実に作るなど、儲けることは上手ではないが、世界的バブルがはじけ余裕がなくなれば、真面目なモノづくりの日本の時代が来るだろう」と話されました。

また「米国などの自国ファーストの政治家や企業経営者の影響が大きくなると貧富の分断が進み、持続性がなくなる。そうすると分断の起きてない基盤のしっかりした希少な社会がより重要になって来る。そのような社会での経済活動が有利になってくれば、日本が世界的にステイタスを取り戻せるのではないかと、日本の未来にとっても勇気をいただけるお話でした。

講演終了後は、参加者一同新年会で盛り上がり、素晴らしい1年のはじまりとなる会となりました。

組織増強部会 鈴木 芳文



令和7年1月25日(土)の14:30から16:30まで、千葉県柏市の麗澤大学の新校舎「さつき」3201教室におきまして、ユニマツグループ株式会社南西楽園リゾート常務取締役の田中正男氏を講

師に迎え、「“人が辞めない”“育つ組織”を創る!」をテーマに新年セミナーを開催し、26名が参加しました。

セミナー前には、昨年竣工した新校舎「さつき」の見学ツアーを企画。田中講師も参加され、麗澤大学の小林宏明事務局長の案内のもと、教授や学生が共に研究し、交流を誘発するようなフレキシブルな空間が設けられた最新の設備を見学しました。開会では麗澤大学の徳永澄憲学長に挨拶をいただき、講演がはじまりました。

講師の田中氏は大学卒業後、東京ヒルトンに

入社してホテルエとしてスタートされました。ホテルの開業に9回携わるなど国内外で経験を積み、カトープレジャーグループに入社後は、主に沖縄・九州エリアの取締役社長兼COOとして、15カ国から集まった1000人を超えるスタッフを束ねた経験を持ちます。

田中氏は「ダイバーシティ」「人材育成」「社会貢献活動」の3つを経営の柱として注力し、人が辞めずに育つ、強い組織を作り上げたご自身のご経験から、「無視しない」「否定しない」「人間力」「桜梅桃李」というご自身の座右の銘を要諦として上げつつ、お話いただきました。

セミナー終了後は、モラロジー道德教育財団のキャンパスプラザに会場を移し、懇親会を執行了いました。講師を囲んで、和やかな雰囲気の中、楽しい時間を過ごした後に散会となりました。

セミナー委員会 佐野 和隆



大阪支部 新年例会報告



1月20日(月)大阪天満橋の大阪キャッスルホテルにて新年例会を行いました。講師として麗澤大学経済学部長の近藤明人教授をお招きしました。当日の出席者は35名が参加されました。比較的若い会員・互敬塾生が多く参加され、関心の高さが伺われました。講演終了後恒例の懇親会が開催され和やかなひと時を過ごしました。

講演テーマとして近藤教授の研究テーマでもある「ファミリービジネスの本質と未来—強みを生かし、衰退を防ぐ戦略とは—」と題してご講演いただきました。

当日は6つのコンテンツに分けて解りやすくご説明頂きました。

- 1.ファミリービジネスの特徴
- 2.ファミリービジネスの強み

(ファミリー性と社会情緒資産)

- 3.ファミリービジネスの衰退のメカニズム
- 4.ファミリービジネスの成長と未来
- 5.ファミリービジネスの戦略
- 6.永続を目指して

特に個別テーマで強く感じたのは、事業承継(世代交代)の問題、家族の個人勘定が経営に影響を与える等のご指摘まさにその通りです。再確認したのは伝統と革新・変革の違いを解りやすくご説明くださり納得です。

その他、参考事例を挙げてそれをSWOT分析し問題解決の方法など具体的に示して頂き、参加者に大いに参考になったように思います。

懇親会では、各副代表幹事の新年の挨拶等がありました。その他講師への追加質問等がありました。皆さんテーマにしました「ファミリービジネスの本質と未来」についてご自分の体験も含め、共感することが多く、色んな質問が出ました。新年にふさわしくも和やかにひと時を過ごし、最後は恒例になりました「大阪締め」で散会しました。

事務局長 藤岡 庸一



令和7年1月23日（木）（株）ホテルパークにて新年岐阜経済講演会を開催致しました。講師にモラロジー道德教育財団特任教授で、麗澤大学教授・同大学教職センター長の大久保俊輝講師をお迎えしました。参加者は95名です。大久保講師は、小学校の教員、教頭、校長を歴任され、不登校児・障害児支援活動・教職を目指す学生への支援活動・子育てに悩む親への支援など幅広く活躍されています。講演のテーマは、大久保講師の著書「辞めない社員の育て方」（時事通信出版社）に基づいて教育者の視点と、自身の体験にもとづいていろんな角度からご講演していただきました。

リーダーの資質は「判断力」であり「人財の見抜き方」では、人財を育てた人が本当の人財で、人に活かされる側から人を活かす方へ変わる。「人は登用しなければわからない」期限を決め、そしてその人の力を見ることが大切。「組織論」として社長が一人で引っ張るのでなく、新幹線のように

に車両駆動しているように、社員一人一人が駆動していかないと会社は安定しない。社員をやる気をさせるためには、「しかり方」、「ほめ方」にも工夫が必要である、叱るときは、「短く」「大きく」「あなたらしくないぞ」「あなたはもっとできる」と良くなってもらいたいという気持ちを込めることである。又道德教育の重要性についてもお話しいただきました。

道德は行動である。学校では、道德教育が形骸化している。道德が行動することまで教えていない。挨拶と言葉遣いが大事で、嫌な人にこそ先に挨拶をする。

そして相手の言い分をしっかりと聴くことであるとのこと。具体的な事例を入れながらわかりやすく、一方的お話されるのではなく、聴講者に問いかけながら、講演していただきました。最後に、楽しみ！喜び！感謝して！今に生きる！を全員で元気よく唱和させていただきました。

事務局長 浅野 龍介



本会報のバックナンバーはホームページでご覧いただけます。

NIHON DOHKEIKAI <http://www.ndk.gr.jp>

一般社団法人

発行：**日本道経会**

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL. (04) 7173-3172 FAX. (04) 7173-3134
E-mail office@ndk.gr.jp

事務局だより

桜の花咲く季節となりました。3月は年度末で何かと忙しい時期ではないでしょうか。

弊社事務局も新年度に向けて準備を進めています。

今後も皆様の道経一体経営活動のお手伝いができるようにスタッフ一同力を合わせて努力させていただきます。 本部事務局